

一日の会話行動に関する調査報告



小磯花絵・渡部涼子・土屋智行・横森大輔・相澤正夫・伝康晴

2017年3月

大学共同利用期間法人 人間文化研究機構 国立国語研究所

一日の会話行動に関する調査報告

小磯 花絵・渡部 涼子・土屋 智行・横森 大輔・相澤 正夫・伝 康晴

2017 年 3 月

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立国語研究所

■ 目次

第 1 章	はじめに	1
第 2 章	調査の方法	3
2.1	調査項目の設計	3
2.1.1	会話形式	3
2.1.2	会話相手の属性	5
2.1.3	会話の長さ	5
2.1.4	場所	5
2.1.5	活動	5
2.2	調査の方法	6
2.2.1	調査方法の概要	6
2.2.2	調査の手続き	6
2.2.3	調査協力者	7
第 3 章	調査の結果	9
3.1	結果の概要	9
3.1.1	会話の属性	9
3.1.2	会話状況の属性	12
3.1.3	まとめ	14
3.2	調査項目間の関係	14
3.2.1	協力者の属性ごとの傾向	15
3.2.2	会話形式・場所・活動の関係	19
3.2.3	会話の長さと人数	21
3.2.4	会話相手の属性	22
	参考文献	25
	付録	27
	付録 1 記入表	27
	付録 2 基本情報シート	31
	付録 3 記入の手引き	33

第1章 はじめに

国立国語研究所機関拠点型基幹研究プロジェクト「大規模日常会話コーパスに基づく話し言葉の多角的研究」（平成 28～33 年度，リーダー：小磯花絵，略称「日常会話コーパス」）では，さまざまなタイプの日常会話 200 時間をバランス良く収録した大規模な日常会話コーパスを構築している。

表 1.1: 主要な日本語の日常会話・雑談コーパス

コーパス名	規模	概要	音声
名大会話コーパス	161 名 100 時間	親しい者同士の雑談	無
BTS による多言語話し言葉コーパス	294 会話 66 時間	友人同士の雑談，教師学生 面談会話，電話会話など	一部
Sakura コーパス	18 会話	大学生の会話	有
千葉大学 3 人会話コーパス	12 会話 2 時間	大学生の友人同士の会話	有
CALL HOME Japanese	120 会話 20 時間	アメリカ在住日本人と国内の家 族・友人との電話会話	有
CallFriend Japanese	31 会話	アメリカ在住の日本人同士の電 話話会	有
女性のことば・職場編 男性のことば・職場編	各 21 名	職場のフォーマル・インフォー マルな場面の自然談話	無

表 1.1 に，日本語の日常会話を納めた主要なコーパス・データベースの一覧を示す。個々のコーパスを見ると，親近者同士の雑談や電話会話，職場会話といったように，話者や会話形式，場面などに偏りが見られる。また全体として見ても，親近者同士，中でも若者の雑談が多い。収録のし易さが一因と考えられるが，日常会話は親近者同士の雑談だけで構成されるわけではない。

我々の日常会話行動を正確に記述し，その本質を解明するには，日常会話の幅広いレジスターをカバーするようサンプルを選ぶことが求められる。しかし話し言葉の場合，実際にどのようなレジスター的な広がりがあるかを把握すること自体，重要な課題である。そこで，日本語母語話者が日常的に交わす会話の実態をとらえてコーパス設計に活かすために，予備調査として，平成 26 年度に会話行動調査を実施した。この予備調査は，国立国語研究所フィージビリティスタディ型共同研究プロジェクト「均衡性を考慮した大規模日本語日常会話コーパス構築に向けた基盤整備」（リーダー：小磯花絵，平成 26 年 7 月～平成 27 年 8 月）において実施したものである。

日常会話コーパスの構築にあたっては，会話行動調査で得られた結果を参考に，偏りがないかを検証しながら進めることになる。そのため，調査結果を把握しておくことは，「日常会話コーパス」プロジェクトを推進する上で不可欠である。小磯ほか (2016) においても調査結果の

報告を行ったが，会話の件数に関する結果の報告に留まった。コーパス構築に際しては，会話の件数だけでなくその長さについても重要な指標となるため，本報告書では会話の件数・長さの両面から結果をまとめる。また，こうした調査自体が新しい試みであることから，調査の方法や結果を細かく記録・報告することは，プロジェクトの目的を越え，意義のあることと言えよう。そのため，調査に用いた調査票や手引きなどについても付録に収めて公開する。

第2章 調査の方法

2.1 調査項目の設計

会話行動を調査する際、我々が普段行っている会話をどのような視点でとらえるかが問題となる。本調査では、会話行動を大きく次の三つの軸でとらえることとし、具体的に、表 2.1 から表 2.3 に示す調査項目を設定した。

1. 会話の属性： 会話形式や会話の長さなど
2. 会話状況の属性： 会話の行われた時間帯や場所、活動など
3. 調査協力者（以下、協力者）の属性： 性別や年代、職業など

2.1.1 会話形式

表 2.1 に示した通り、会話形式の選択肢として、「雑談」、「用談・相談」、「会議・会合」、「授業・レッスン・講演」を設けた。

「雑談」は、会話の目的や話題などがあらかじめ定められていない会話を、「用談・相談」は、会話の目的はある程度決まっているが時間や場所などは定められていない会話を、「会議・会合」は、「用談・相談」とは異なり時間や場所などが定められている会話を、「授業・レッスン・講演」は、先生や講演者など会話の流れを導く人物がいる場での会話を指す。

この選択肢の設定は、国立国語研究所（1971;1987）および畠（1983）で述べられている話し言葉の分類を参考にしている。国立国語研究所（1971）では、コミュニケーション上の機能にもとづき、談話を、「ひとり」、「あいさつ」、「しらせ・用談」、「おしゃべり」、「あそび」、「教え・さしず」、「けんか」、「思考」に分類している。また畠（1983）は、計画性の程度にもとづき、言語行動の場面を、「拘束場面」と「自由場面」に分類している。「拘束場面」とは、コミュニケーションの目的、参加者の役割、話題、コミュニケーションの手続きなどが外的に決っている場面や、言語行動が儀式化されている場面であるのに対し、「自由場面」とは、こうした場面や言語行動の様式があらかじめ決まっておらず、その場面の参加者が協力し自発的に決めていくような自由度の高い場面とされる。

本調査では、以上の分類を参考に、「おしゃべり」や「あそび」を自由場面としてまとめて「雑談」に、目的をもつ「しらせ・用談」を拘束性の低い「用談・相談」と拘束性の高い「会議・会合」に分けた。また「拘束場面」の「教え・さしず」は「授業・レッスン・講演」とした。なお本調査では、あいさつのような極めて短いやりとりで構成される会話や独り言・講演のような独話は対象外とすることから、「ひとり」、「あいさつ」、「思考」に相当する選択肢は設けていない。

表 2.1: 会話の属性に関する調査項目

項目	説明	回答方式	選択肢
会話形式	会話のタイプ	単一選択式	雑談, 用談・相談, 会議・会合, 授業・レッスン・講演
会話相手	会話相手との関係	選択式 (複数可)	家族, 親戚, 先生生徒, 仕事学業関係, 友人知人, 公共商業関係, 顔見知り・見知らぬ人
長さ	関係ごとの人数 会話の長さ	数値入力式 単一選択式	5 分未満, 5～15 分, 15～30 分, 30 分～1 時間, 1～2 時間, 2～5 時間, 5～10 時間, 10 時間以上
相手属性	外国人を含む会話	オプション式	(該当する場合に選択)
モード	電話・ネットでの音声・映像会話	オプション式	(該当する場合に選択)
言語	外国語での・外国語を含む会話	オプション式	(該当する場合に選択)

表 2.2: 会話状況の属性に関する調査項目

項目	説明	回答方式	選択肢
時間帯	会話が行われた時間帯	単一選択式	午前, 午後, 夜
場所	会話をした場所	単一選択式	自宅, 職場・学校, 公共商業施設, 交通機関, それ以外の屋内, それ以外の屋外
活動	会話中にしていた活動	単一選択式	食事, 家事・雑事, 身の回りの用事, 療養, 仕事・学業, 業務外・課外活動, 社会参加, レジャー活動, 付き合い, 移動, 休息

表 2.3: 協力者の属性に関する調査項目

項目	説明	回答方式	選択肢
性別	協力者の性別	単一選択式	男性, 女性
年代	協力者の年代	単一選択式	20 代, 30 代, 40 代, 50 代, 60 代以上
職業	協力者の職業	単一選択式	会社員・役員・公務員・専門職 (以下, 会社員等) 自営業, パート・アルバイト, 学生, 専業主婦, 無職・定年退職者 (以下, 無職等), その他
世帯員数	協力者の世帯員数	数値入力式	
居住地	協力者の居住地	単一選択式	東京都, 神奈川県, 千葉県, 埼玉県

2.1.2 会話相手の属性

会話相手の属性は、国立国語研究所（1980）の分類（「家族関係」、「師弟関係」、「職場関係」、「主・客関係」、「知友関係」、「その他」）を参考に、表 2.1 に示す七つの選択肢を設定した。

「公共商業関係」は、ものの売り買いやサービスなどの取引をおこなう関係を指し、役所・店舗・飲食店などでの窓口・店員と客との間柄や、病院での医師と患者との間柄などが該当する。「知人・友人」は、互いをよく知っている、あるいは互いに名前と顔が一致する間柄を、「顔見知り・見知らぬ人」はお互いの素性をよく知らない相手を指す。

2.1.3 会話の長さ

会話の長さ（具体的な選択肢は表 2.1 参照）は、会話を含む場面の長さではなく、実際に会話した時間に基づき判断することとした。たとえば、30 分の食事の中で会話をほとんどせず、その合計が 5 分未満であった場合、30 分ではなく 5 分未満とする。

2.1.4 場所

場所は、国立国語研究所（1980）の分類を参考に、表 2.2 に示すの六つの選択肢を設けた。

国立国語研究所（1980）は、場所を大きく「公的生活」、「私的生活」、「外出先」に分類し、「外出先」をさらに「各種学校など」（語学学校など）、「アルバイト先」、「公共施設」、「店」、「旅先」、「路上」、「駅」、「車内」に分類している。

本調査では、「公的生活」を「職場・学校」、「私的生活」を「自宅」とした。また「外出先」のうち、公共商業的行為をいとなむ場所（「公共施設」、「店」、遊園地など）を「工業商業施設」、移動をともしなう場所（「駅」、「車内」）を「交通機関」、「それ以外の屋外」（「路上」や公園など）、これに「それ以外の屋内」（知人・親戚の家など）を加えて 4 項目に整理した。

2.1.5 活動

活動の選択肢は、日本放送協会（2010）による国民生活時間調査の行動分類（中分類）を参考に表 2.2 に示すの 11 の選択肢を設けた。

日本放送協会（2010）の中分類うち、会話行動を伴わない「睡眠」や他活動と共に現れる「マスメディア接触」は除外した。また「通勤」と「通学」は、家と店舗の往復などその他の移動と合わせて「移動」に、「仕事関連」と「学業」は「仕事・学業」にまとめた。仕事のつきあいや部活動など仕事や学業から派生する副次的な活動は、「業務外・課外活動」として新たな選択肢を設けた。その他の選択肢は日本放送協会（2010）の中分類に準拠した。ただし選択肢の名称は分かりやすさを優先して一部変更した。「食事」は自宅・職場・店舗・屋外などでの食事が、「家事・雑事」（「家事」）は掃除や買物、子どもの世話などが、「身の回りの用事」は入浴や散髪などが、「療養」は通院や入院などが、「社会参加」は冠婚葬祭や町内会の行事などが、「レジャー活動」は趣味・娯楽・行楽・スポーツ・習いごとなどが、「付き合い」は知人との電話でのおしゃべりや同窓会など人と会うこと・話すことを主な目的とする活動が、「休息」は自宅での一家団らんや職場での休憩などが該当する。

2.2 調査の方法

2.2.1 調査方法の概要

■ 期間 2014 年 11 月 1 日～2015 年 2 月 28 日

■ 調査対象 首都圏（東京・神奈川・千葉・埼玉）に在住の 20 歳以上の日本語母語話者 243 人に調査に協力してもらった¹。各世代（20 代・30 代・40 代・50 代・60 代以上）の男女がそれぞれ 20～25 名となるよう調整した。調査協力者は、ホームページおよび知人などからの紹介により募集した。家庭での会話行動の多様性をとらえるため、家族等と同居している人を優先して募集し、各世帯 1 名を上限とした。

■ 調査日・時間 調査は、協力者 1 人あたり任意の平日 2 日・休日 1 日の計 3 日とし、起床してから就寝するまでの会話を全て記録するよう依頼した。

■ 調査項目 調査項目は、前章で述べた通り、会話に関する調査項目（表 2.1 の 6 項目）、会話状況に関する調査項目（表 2.2 の 3 項目）、協力者の属性（表 2.3 の 5 項目）とした。

このうち会話・会話状況に関する調査項目と会話の概要は「記入票」（付録 1）に、協力者の属性は「基本情報シート」（付録 2）にまとめた。

会話行動の「実態」の解明を目的とする場合、仮に丸一日会話をしない日があっても、それが生じる以上、調査の対象とすべきである。しかし本調査は、コーパス設計のために会話行動の「多様性」をとらえることを主目的としており、これを限られた期間と予算で達成するために、あまり会話しないと予想される日は調査日としないよう依頼した。その意味において、会話行動の正確な実態調査にはなっていない点に注意する必要がある。

2.2.2 調査の手続き

次に示す流れで調査を実施した。

1. 協力者に、調査の手引き（付録 3）、調査票（1 日 1 冊、計 3 冊）、基本情報シート 1 部を事前に郵送した。
2. 調査の手引きに目を通し、質問があれば電話あるいはメールで問い合わせるよう依頼した。
3. 資料が届いてから 2 週間以内を目途に、協力者本人が任意の平日 2 日・休日 1 日（計 3 日）を選んで調査を実施してもらった。有職者は勤務日を平日、非勤務日を休日、それ以外は月～金を平日、土日祝日を休日とした。あまり会話しないと予想される日は避けるよう依頼した。
4. 調査日当日、協力者は調査票 1 冊（38 頁分）を携帯し、起床してから就寝までの間に行った全ての会話について、会話の概要を記した上で、会話と会話状況に関する調査項目（表 2.1・表 2.2）に回答してもらった。できるだけ一まとまりの会話が終了するごとに記録するよう依頼した。

¹本調査の目的は、多様な日常会話を網羅したコーパスを設計するために、私たちが普段、どのような種類の会話をどの程度行っているかを明らかにすることである。構築するコーパスが首都圏在住者を中心とする会話を対象とするため、調査の対象者も首都圏在住者に限定した。

5. 調査終了後、3日分の会話行動を記録した調査票3冊と、協力者の属性を記した基本情報シート1部を調査者に返送してもらった。

2.2.3 調査協力者

調査の応募者数は266名、うち有効な回答者数は243人（729日分、3日/1人）であった（有効回答率：91.4%）。

表2.4に、協力者の属性のうち性別、年代、職業の内訳を示す。当初予定した通り、各世代の男女につき20～25名を確保することができた。職業については、男性は会社員等が半数を超えているのに対し、女性は会社員等に加え、パート・アルバイトや専業主婦も多くを占めていた。男女ともに20代の大半は学生であった。世帯員数については、1人（一人暮らし）が32名、2人が62名、3人が61名、4人が50名、5人以上が14名と、家族と同居している割合が多かった。これは、先述の通り、家庭での会話行動の多様性をとらえるため家族等と同居している人を優先して募集したためである。

表 2.4: 協力者の属性の内訳（人）

性別	職業	性別					計	割合
		20代	30代	40代	50代	60代～		
男性	会社員・役員・公務員・専門職	5	20	23	18	7	73	(61.3%)
	自営業	0	0	2	2	4	8	(6.7%)
	パート・アルバイト	0	1	0	1	0	2	(1.7%)
	専業主婦	0	0	0	0	0	0	(0.0%)
	学生	18	0	0	0	0	18	(15.1%)
	無職・定年退職者	0	1	0	1	12	14	(11.8%)
	その他	0	0	0	2	2	4	(3.4%)
	小計	23	22	25	24	25	119	
女性	会社員・役員・公務員・専門職	5	11	4	2	4	26	(21.0%)
	自営業	0	1	2	0	1	4	(3.2%)
	パート・アルバイト	1	5	8	12	4	30	(24.2%)
	専業主婦	1	5	8	8	11	33	(26.6%)
	学生	18	0	0	0	0	18	(14.5%)
	無職・定年退職者	0	0	1	1	2	4	(3.2%)
	その他	0	3	2	1	3	9	(7.3%)
	小計	25	25	25	24	25	124	
合計		48	47	50	48	50	243	

第3章 調査の結果

3.1 結果の概要

調査対象者 243 人，計 729 日分の総会話数は 9,272 件であり，1 日の平均会話数は 12.7 件，1 日の平均会話時間は 6.2 時間であった。会話時間は会話の長さの平均値（例：「1～2 時間」であれば 1.5 時間）から算出した。調査依頼時にあまり会話しないと予想される日は避けるよう依頼したため，実態よりも 1 日の会話数や会話時間は多いと思われる。

平日と休日に分けて見ると，平均会話数は平日で 13.4 件，休日で 11.3 件と，休日の方が回数的には若干少ないが，時間にしてみると，平日は 6.1 時間であるのに対し，休日は 6.5 時間と，休日の方が若干長い。休日の方が，1 件あたりの会話時間が長いことが分かる。

結果を表 3.1 にまとめる。

表 3.1: 1 日の平均会話数・会話時間長と 1 回あたりの平均会話時間長

	1 日の会話数	1 日の会話時間長	1 回の会話時間長
全体	12.7 回	6.2 時間	29 分
平日	13.4 回	6.1 時間	27 分
休日	11.3 回	6.5 時間	35 分

3.1.1 会話の属性

表 3.2 に，会話の属性 6 項目ごとに，総会話数 9,272 件に関する会話の件数，会話の総時間長（ただし会話の長さ属性を除く），および，1 会話あたりの時間長の内訳をまとめて示す。欠損値のある項目については，会話数の合計が 9,272 件に満たないことがある。会話形式と相手人数については，結果を図 3.1 にまとめて示す。

会話形式については，会話の件数から見ると，雑談が全体の 60% 強を占めており，ついで用談・相談が 30% 強であるのに対し，会議・会合や授業等はいずれも 3% 前後に留まっている。このように日常会話では，雑談や用談・相談の件数が多いことが分かる。ただし，1 回あたりの会話時間長は，授業・レッスン・講演や会議・会合が 79 分，67 分と長いのに対し，用談・相談は 17 分と短いことから，時間長で見ると，相談・相談の割合は 20% 弱に落ちる。用談・相談には，いわゆる相談ごとだけでなく，店舗での店員とのやりとりなどの短い発話も含まれるためと考えられる。

相手人数については，全ての関係性の人数の合計値を用いた。表から，相手人数が 1 人・2 人（2～3 人の会話）の場合，会話の件数としては全体の 75% を占めており，日常会話では少人数の会話が多いことが分かる。ただし，相手人数が多くなるほど 1 会話あたりの時間長は長くなる傾向にあることから，会話の時間長から見ると相手人数が 1 人・2 人の場合は 56% と少し低くなる。会話の長さは，15 分以下の短い会話が約 60%，30 分以下の会話が約 75% を占めており，1 時間を超える会話は 12 % 弱に留まる。会話者の人数が多いほど 1 会話あたりの時間が長

くなる傾向が見られるのは、人数が多い会話の場合、親戚の集まりや会社での会議など、わざわざ日程等を調整して設定された集まりである可能性が高く、そのような場合、短時間で解散することは少なく、少し長めに集まりの場が継続される傾向にあるためと考えられる。人数と長さの関係については、3.2.3 節で改めて言及する。

モードについては、会話の件数で見ると、対面会話が90%、電話やインターネットなどを介した遠隔会話は10%であり、遠隔会話も少なからず見られる。ただし、遠隔の会話は対面の会話の約半分の長さであり、時間長の観点から見ると5%程度に留まる。

相手属性や言語については、会話の件数・時間長いずれの観点からも、外国人を含む会話や外国語での、あるいは外国語を含む会話は全体の1~2%に留まっており、一般的に日常会話ではあまり生じないケースと言える。

表 3.2: 会話の属性 6 項目：会話の件数・会話の総時間長・1 会話あたりの時間長

	会話の件数		総時間長		時間長／1 会話
【会話形式】					
雑談	5,719	(61.9%)	3,058 時間	(67.5%)	32 分
用談・相談	2,997	(32.4%)	847 時間	(18.7%)	17 分
会議・会合	317	(3.4%)	352 時間	(7.8%)	67 分
授業・レッスン・講演	209	(2.3%)	274 時間	(6.0%)	79 分
【相手人数】					
1 人	5,257	(56.9%)	1,735 時間	(38.3%)	20 分
2 人	1,713	(18.5%)	812 時間	(17.9%)	28 分
3 人	932	(10.1%)	565 時間	(12.5%)	36 分
4 人	392	(4.2%)	299 時間	(6.6%)	46 分
5 人	254	(2.7%)	197 時間	(4.3%)	47 分
6 人	129	(1.4%)	143 時間	(3.2%)	67 分
7 人	81	(0.9%)	88 時間	(1.9%)	65 分
8 人	58	(0.6%)	68 時間	(1.5%)	70 分
9 人	40	(0.4%)	48 時間	(1.1%)	72 分
10 人以上	388	(4.2%)	575 時間	(12.7%)	89 分
【会話の長さ】					
5 分未満	2,716	(29.3%)	—	—	—
5～15 分	2,640	(28.5%)	—	—	—
15～30 分	1,555	(16.8%)	—	—	—
30 分～1 時間	1,264	(13.7%)	—	—	—
1～2 時間	714	(7.7%)	—	—	—
2～5 時間	340	(3.7%)	—	—	—
5～10 時間	26	(0.3%)	—	—	—
【モード】					
対面	8,368	(90.3%)	4,315 時間	(95.0%)	31 分
電話・ネット	904	(9.7%)	226 時間	(5.0%)	15 分
【相手属性】					
日本人同士	9,188	(99.1%)	4,466 時間	(98.4%)	29 分
外国人含む	84	(0.9%)	74 時間	(1.6%)	53 分
【言語】					
日本語	9,200	(99.2%)	4,469 時間	(98.4%)	29 分
外国語（含む）	72	(0.8%)	71 時間	(1.6%)	59 分

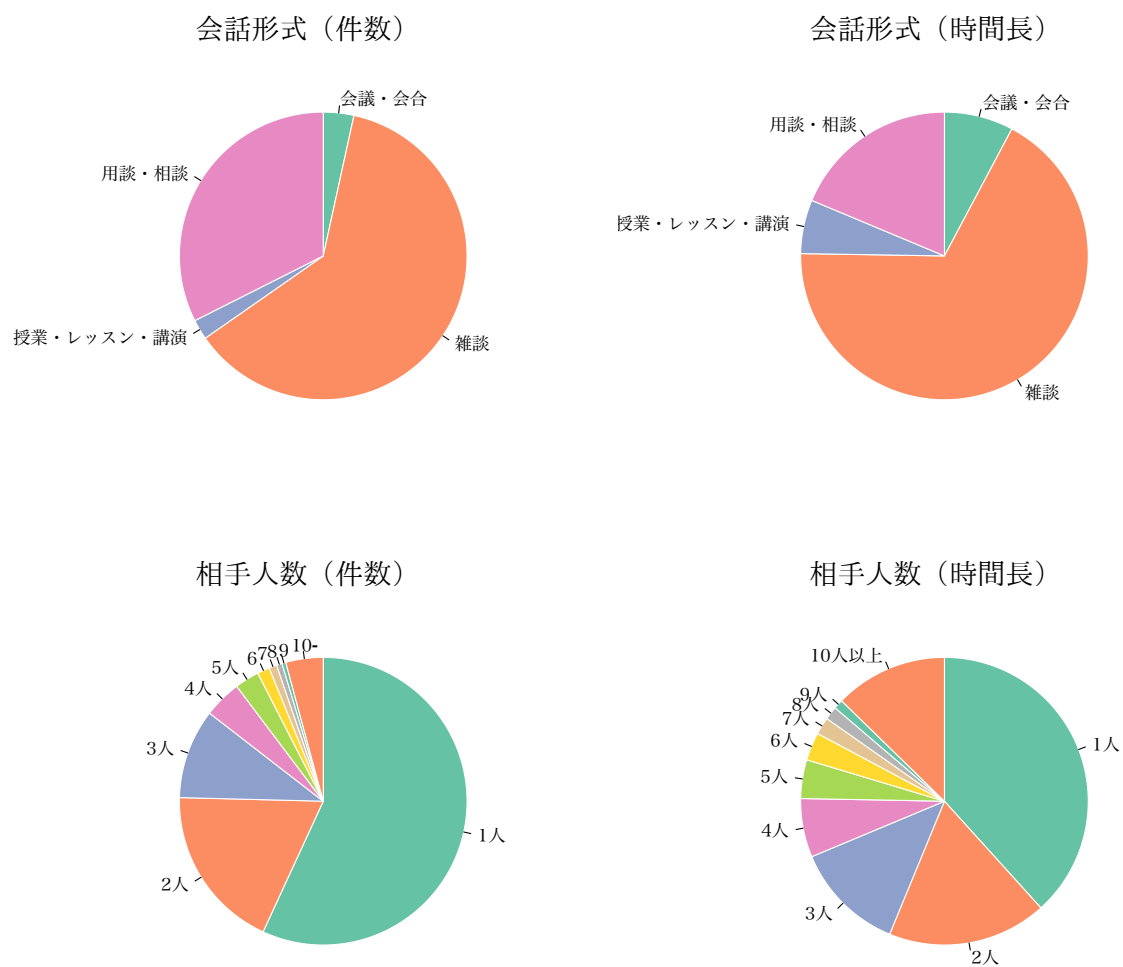


図 3.1: 会話形式・相手人数：会話の件数と会話の総時間長の内訳

3.1.2 会話状況の属性

表 3.3 に、会話状況の属性 3 項目ごとに、会話の件数、会話の総時間長、および、1 会話あたりの時間長の内訳をまとめて示す。また図 3.2 に割合の結果を示す。

表 3.3: 会話状況の属性 3 項目：会話の件数・会話の総時間長・1 会話あたりの 時間長

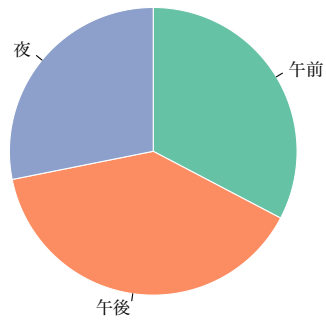
	会話の件数		総時間長		時間長／1 会話
【時間帯】					
午前	3,019	(32.7%)	1,040 時間	(23.0%)	21 分
午後	3,618	(39.2%)	1,827 時間	(40.4%)	30 分
夜	2,599	(28.1%)	1,656 時間	(36.6%)	38 分
【場所】					
自宅	3,237	(35.0%)	1,491 時間	(32.9%)	28 分
職場・学校	2,802	(30.3%)	1,168 時間	(25.8%)	25 分
公共商業施設	1,700	(18.4%)	993 時間	(21.9%)	35 分
交通機関	472	(5.1%)	219 時間	(4.8%)	28 分
それ以外の屋内	411	(4.4%)	224 時間	(4.9%)	33 分
それ以外の屋外	631	(6.8%)	434 時間	(9.6%)	41 分
【活動】					
食事	1,566	(17.0%)	1,174 時間	(25.9%)	45 分
家事・雑事	1,588	(17.2%)	477 時間	(10.5%)	18 分
身の回りの用事	501	(5.4%)	144 時間	(3.2%)	17 分
療養	85	(0.9%)	27 時間	(0.6%)	19 分
仕事・学業	2,331	(25.3%)	1,086 時間	(24.0%)	28 分
業務外・課外活動	118	(1.3%)	69 時間	(1.5%)	35 分
社会参加	97	(1.1%)	94 時間	(2.1%)	58 分
レジャー活動	429	(4.7%)	319 時間	(7.0%)	45 分
付き合い	251	(2.7%)	229 時間	(5.1%)	55 分
移動	1,069	(11.6%)	315 時間	(7.0%)	18 分
休息	1,187	(12.9%)	592 時間	(13.1%)	30 分

会話の生じる時間帯は、件数から見ると午前・午後・夜ともに大きな差はないが、午前は 1 会話の時間長が他に比べて短いことから、午前に行われる会話の総時間は午後や夜に比べて短い。

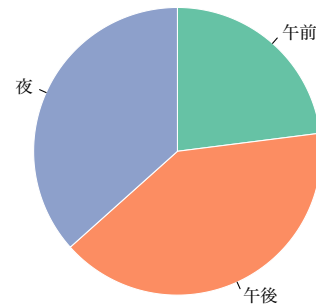
場所については、件数、時間長いずれの点から見ても、自宅での会話が最も多く、また最も長い傾向にあり、職場・学校がそれに続く。このように、私的あるいは公的に主たる空間で会話が多く生じていることが分かる。また、銀行や商店、レストランなどの公共商業施設での会話も少なからず見られる。

活動については、件数から見ると、仕事・学業が 25%、家事・雑事が 17%と、家事・雑事を含む仕事・学業の過程で会話を多く交わしていることが分かる。ただし、家事・雑事の会話は 1 件あたりの時間が短い傾向にあり、総時間長で見ると 10%程度に留まる。身の回りの用事や療養中の会話も 1 件あたりの時間長は短い傾向にある。こうした活動の中で生じる会話は、その活動を遂行するために必要となる用談・相談が相対的に多く見られるが、表 3.2 で見たように用談・相談は他と比べて短い傾向にあるため、このような結果になったものと考えられる。逆に食事の会話は、件数は 17%程度であるが、1 件あたりの会話時間が長いことから、時間長で見ると 26%を占めていることが分かる。社会参加やレジャー活動、つきあいなどの活動中の会話も、食事と同様に 1 件あたりの時間長が長い傾向にある。

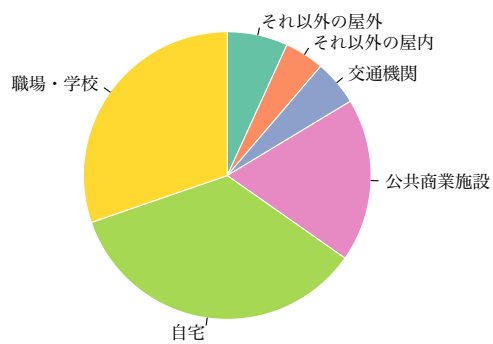
時間帯（件数）



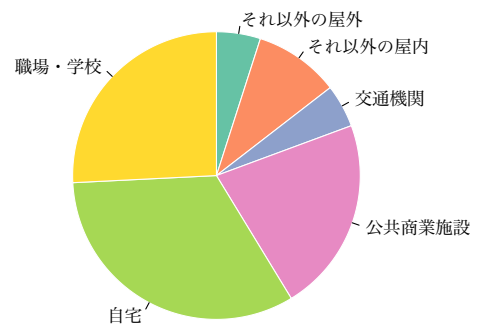
時間帯（時間長）



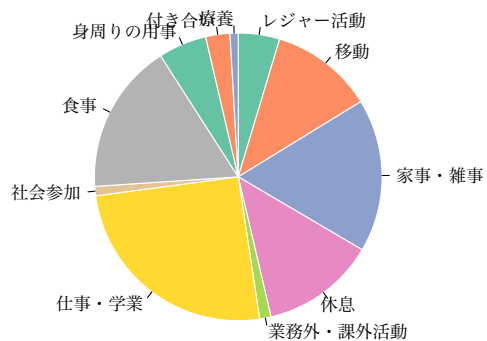
場所（件数）



場所（時間長）



活動（件数）



活動（時間長）

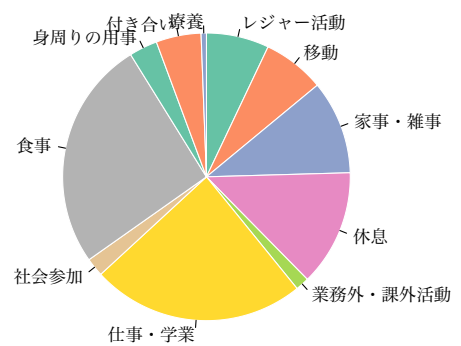


図 3.2: 会話状況の属性 6 項目：会話の件数と会話の総時間長の内訳

3.1.3 まとめ

以上、項目別の分析から日常会話の傾向をまとめると、次のようになる。

1. 日常会話では、雑談や用談・相談の会話が多く、会議・会合や授業・レッスン・講演は少ない。一方、1回あたりの会話時間長では、授業・レッスン・講演や会議・会合は長く、用談・相談は短い傾向にある。
2. 日常会話では、相手人数が1人か2人の少人数会話（2～3人の会話）が多い。
3. 相手人数が多くなるほど1会話あたりの時間長は長くなる傾向にある。
4. 日常会話では、30分以下の短い会話が多く、1時間を超える長い会話は少ない。
5. 日常会話では、電話などによる遠隔会話は10%程度（時間長では5%）に留まり、大半が対面会話である。
6. 日常会話では、日本人同士の日本語（のみ）による会話が大半を占める。
7. 日常会話では、自宅や職場・学校など、私的あるいは公的に主たる空間での会話が多い。
8. 日常会話では、家事・雑事を含む仕事や学業、食事、休息中の会話が多い。ただし、家事・雑事の会話は1件あたりの時間が短い傾向にあり、総時間長で見るとその割合は下がる。

3.2 調査項目間の関係

本節では、全調査項目のうち、協力者の属性として、性別、年代、職業、会話の属性として会話形式、長さ、相手人数、会話状況の属性として場所、活動を取り上げ、項目間の関係を通して会話行動の傾向を見ていく。

項目によっては選択肢が多く煩雑となるため、類似した傾向を示す項目の値を次の通り一部併合した。併合の具体的方法については小磯ほか（2016）を参照されたい。なお、下記のうち下線は、次節以降の分析で図中に記載する場合の略称である。冒頭の1文字で略すこともある。

職業：	<u>会社員等</u> ， <u>自営業</u> ， <u>パート等</u> （パート・アルバイト＋その他）， <u>学生</u> ， <u>専業主婦</u> ， <u>無職等</u>
形式：	<u>雑談</u> ， <u>用談・相談</u> ， <u>会議・授業等</u> （会議・会合＋授業・レッスン・講演）
相手人数：	<u>1人</u> ， <u>2人</u> ， <u>3人</u> ，4～5人 [<u>～5人</u>]（4人＋5人），6人以上 [<u>6人～</u>]（6人～10人以上）
長さ：	5分未満 [<u>～5m</u>]，5～15分 [<u>～15m</u>]，15～30分 [<u>～30m</u>]， 30分～1時間 [<u>～1h</u>]，1～5時間 [<u>～5h</u>]（1～2時間＋2～5時間），5～10時間 [<u>～10h</u>]
場所：	自宅，職場・学校，公共商業施設，それ以外の屋内， 屋外・交通機関（それ以外の屋外＋交通機関）
活動：	食事，家事・雑事等（家事・雑事＋身の回りの用事＋療養），移動，休息，社会参加， 仕事・学業等（仕事・学業＋業務外・課外活動）， レジャー活動等（レジャー活動＋付き合い）

3.2.1 協力者の属性ごとの傾向

会話・会話状況に関する属性のうち、会話形式、場所、活動に着目し、性別および職業ごとの出現傾向を見ていく。

性別ごとに見た場合、会話形式については、女性の方が男性よりも雑談が多く、逆に男性は会議・会合が多い（図 3.3）。この傾向は会話の件数よりも時間長の方がより顕著に見られる。場所と活動については、女性は自宅での家事・雑事等に従事しならの会話が、男性は職場・学校での仕事・学業に従事しならの会話が多い（図 3.4・図 3.5）。2.2.3 節で言及したように、調査協力者のうち、男性は会社員等が半数を超えているのに対し、女性は会社員等に加え、パート・アルバイトや専業主婦も多くを占めている（表 2.4）。こうした性別による職業の偏りが、上述の傾向の違いを引き起こしたと考えられる。

年代ごとに見た場合も同様に、職業の偏りに起因すると考えられる傾向がうかがえる（図 3.6～3.8）。例えば、有職率の高い 30～50 代や学生の多い 20 代は、職場・学校での仕事・学業中の会話が多く見られるのに対し、定年退職者や専業主婦の多い 60 代は、自宅での食事や家事・雑事中の会話が多い。

図 3.9～3.11 に職業ごとの結果を示す。形式は、いずれの職業においても、雑談が全体の半数以上を占めており、また会議・授業等の出現率は低い傾向にある（図 3.9）。細かく見ると、専業主婦は雑談が多いのに対し、会社員等は会議・授業等や用談・相談が多い。場所については、専業主婦や無職・定年退職者は自宅や公共商業施設での会話が多いのに対し、自営業を除く有職者や学生は職場・学校での会話が多い¹（図 3.10）。活動についても、有職者は仕事上の会話が、主婦は家事・雑事中の会話が多いのに対し、学生は学業に加えて休息や移動中の会話が、無職・定年退職者は食事や家事・雑事に次いで休息やレジャー活動中の会話が多い傾向が見られる図（3.11）。

以上、協力者の属性ごとの傾向をまとめると、次のようになる。

1. 性別・年代に見られる会話・会話状況属性の出現傾向は、その性別・年代に属する人の職業の偏りによる可能性が高い。
2. 会話形式・長さ・相手人数については、いずれの職業も全体とほぼ同じ傾向を示す。ただし、会話形式については、有職者は会議・会合や用談・相談が多いのに対し、専業主婦は雑談が多いなどの違いも見られる。
3. 場所と活動については、例えば専業主婦は自宅や公共商業施設での家事・雑事中の会話が多いのに対し、有職者は職場での仕事上の会話が、学生は学校での学業中の会話に加えて休息時や移動中の会話が多いなど、職業による違いが顕著に見られる。

¹自営業の場合、他の有職者に比べて自宅での会話が多いが、これは調査のレベルで、あるいは本質的に、職場と自宅が切り分けづらいことに起因すると考えられる。

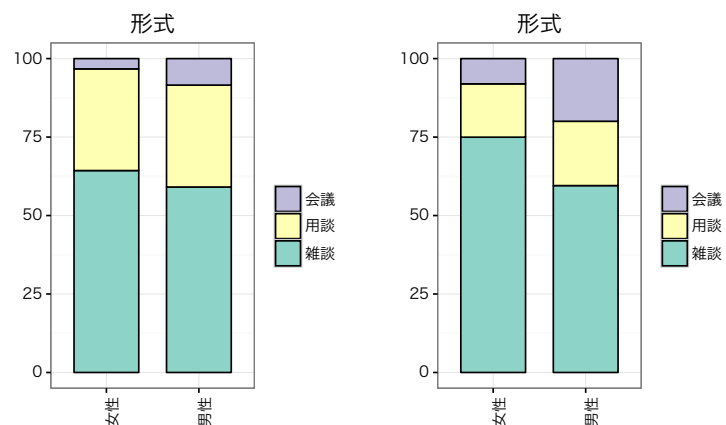


図 3.3: 会話形式：性別に見る会話数の内訳（左：件数，右：時間長）

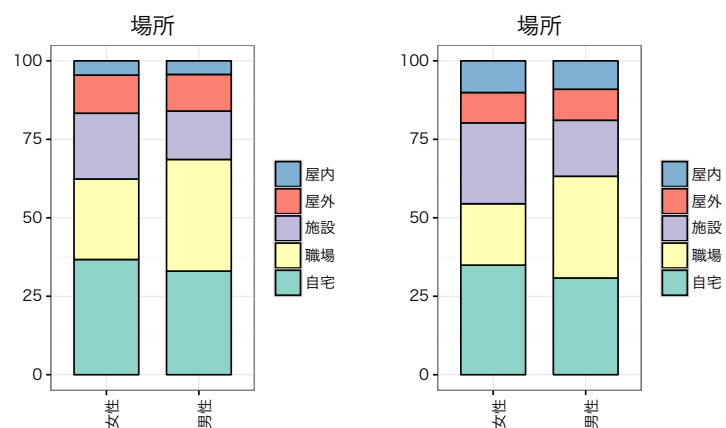


図 3.4: 場所：性別に見る会話数の内訳（左：件数，右：時間長）

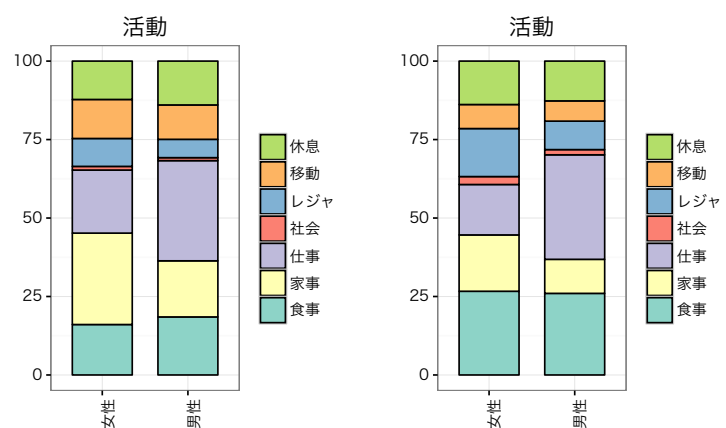


図 3.5: 活動：性別に見る会話数の内訳（左：件数，右：時間長）

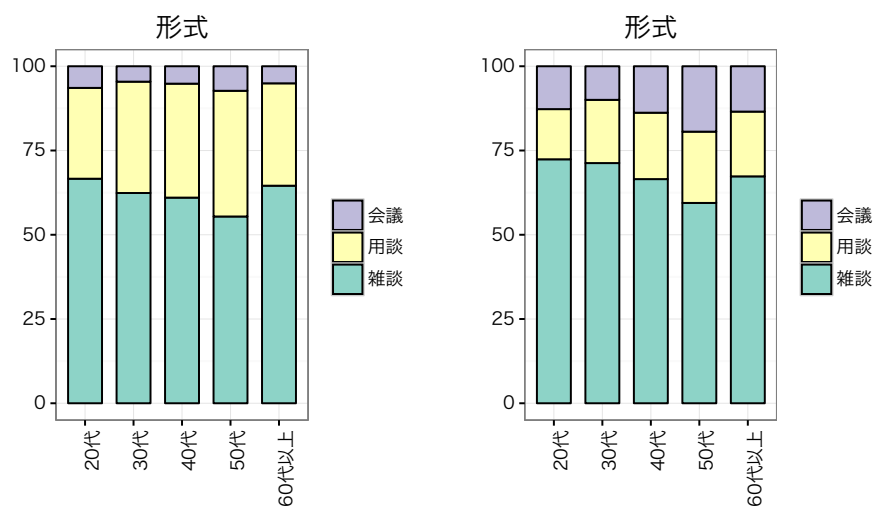


図 3.6: 会話形式：年代別に見る会話数の内訳（左：件数，右：時間長）

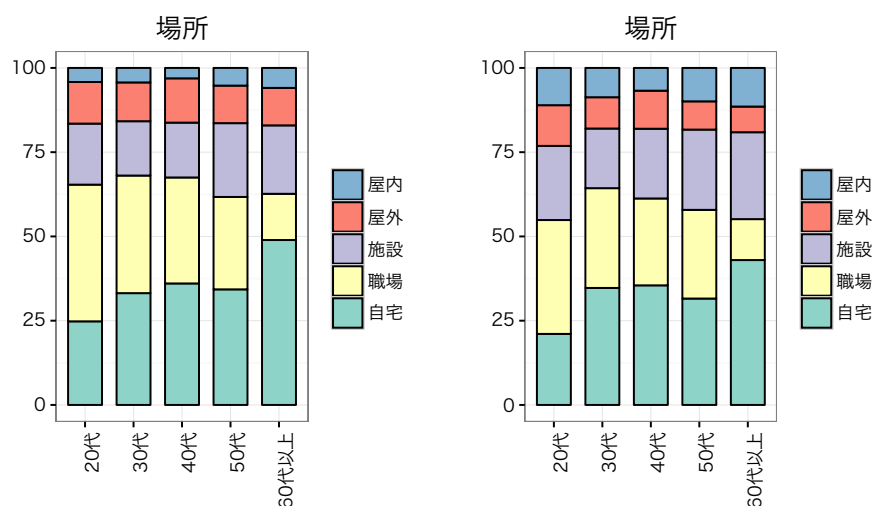


図 3.7: 場所：年代別に見る会話数の内訳（左：件数，右：時間長）

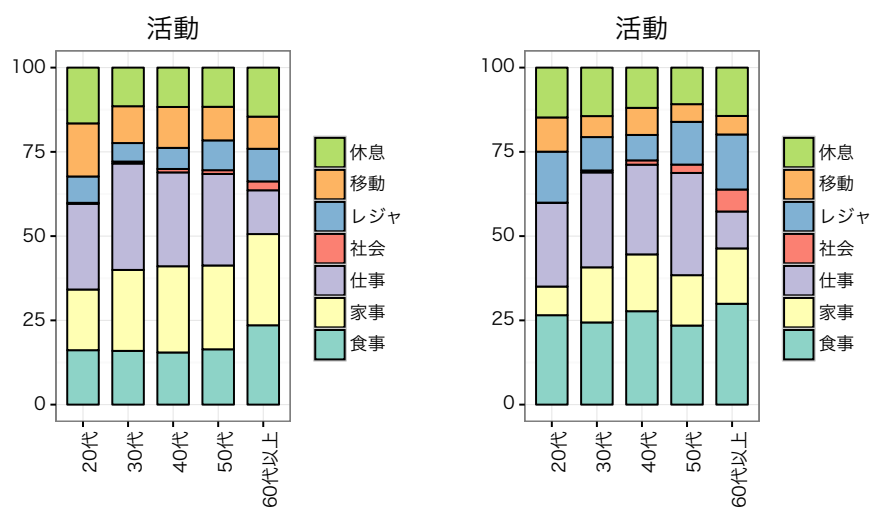


図 3.8: 活動：年代別に見る会話数の内訳（左：件数，右：時間長）

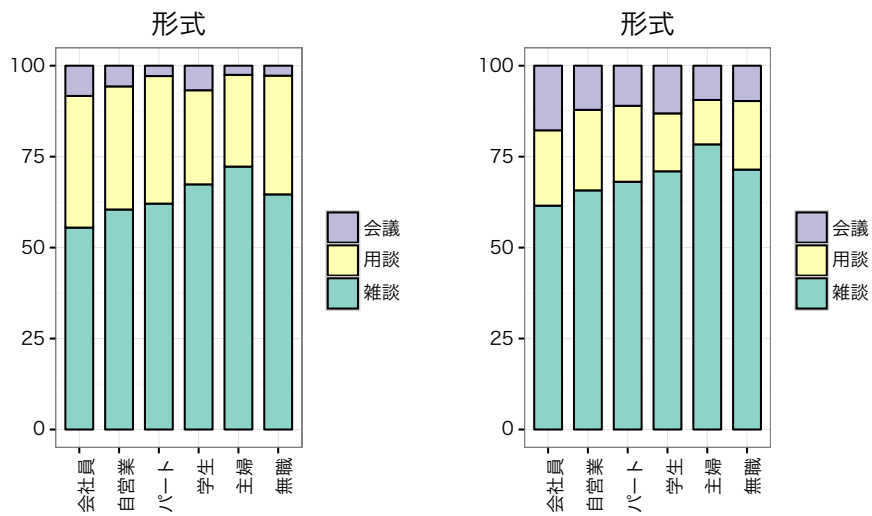


図 3.9: 会話形式：職業別に見る会話数の内訳（左：件数，右：時間長）

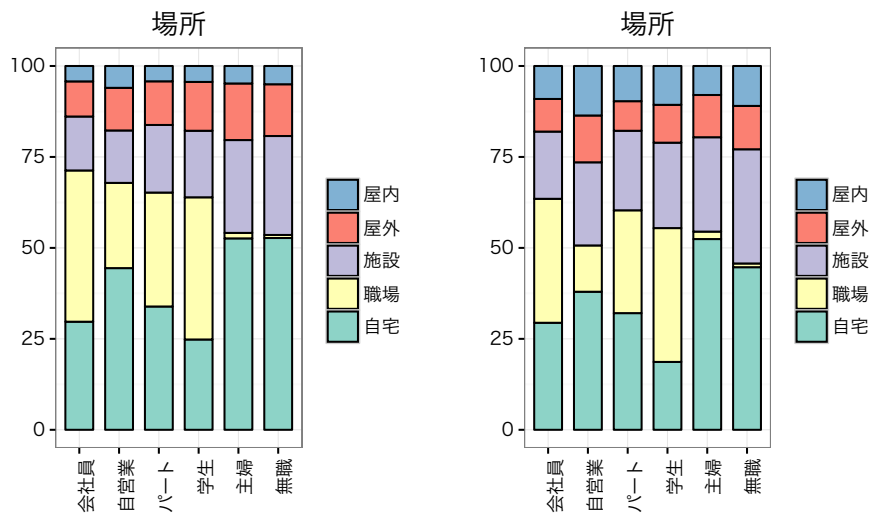


図 3.10: 場所：職業別に見る会話数の内訳（左：件数，右：時間長）

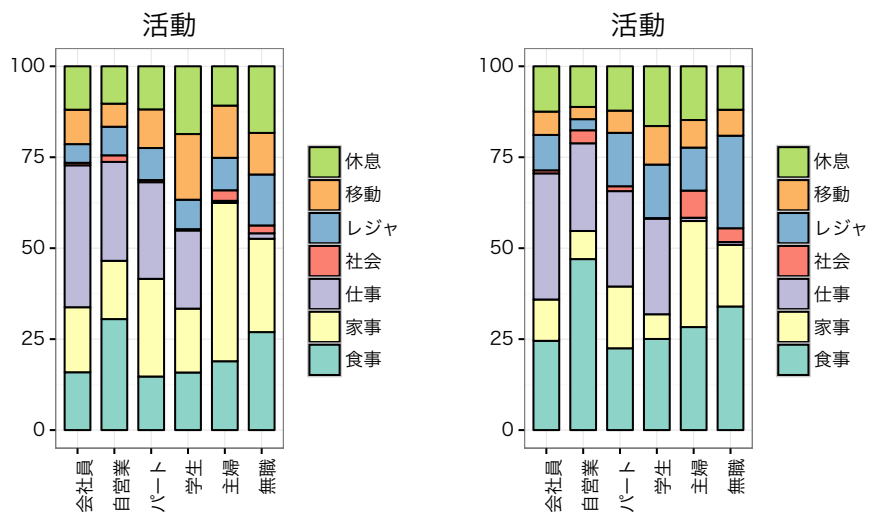


図 3.11: 活動：職業別に見る会話数の内訳（左：件数，右：時間長）

3.2.2 会話形式・場所・活動の関係

本節では、場所と活動に焦点を当て、会話形式も加えてその対応関係を見ていく。会話の件数を対象とする。

図 3.12 は、活動の種類ごとに会話形式と場所の出現傾向を示したものである²。棒の幅と高さは、形式と場所のそれぞれのカテゴリーの出現率を、面積は、「形式×場所」のカテゴリーの出現率を表している。例えば図中の左上の食事の結果を見ると、雑談の件数が全体の 90%（棒の幅）を占めており、そのうちの約 60%（棒の高さ）が自宅における食事時の会話であることが分かる。これは、自宅での雑談が食事会話全体の 50% 以上（ 0.9×0.6 、マスの面積）を占めていることを意味する。

まず活動と会話形式との関係に着目すると、食事、移動、休憩では 80% 以上が雑談であるのに対し、仕事・学業等では 56% を用談・相談が、18% を会議・会合が占めており、雑談は 26% と少ない。家事・雑事やレジャー活動・付き合いは、雑談が 60% 強、用談・相談が 30～40% であり、食事などと比べて用談・相談が少なからず見られる。

活動と場所との関係を見ると、食事と休息は自宅で、仕事・学業等は職場・学校で、レジャー活動・付き合いは公共商業施設で、移動は屋外で頻出する傾向にある。これに形式の違いを加えて詳細に見てみると、食事は、自宅では雑談が圧倒的に多いが、公共商業施設では雑談に加えて用談・相談も多く見られる。職場での食事においては、用談・相談よりも雑談をすることの方が多くいようである。家事・雑事は、自宅では家族を相手に雑談や用談をしながら行われることが多いのに対し、店舗などの公共商業施設では店員などを相手とする用談が多い。仕事・学業等はいずれの会話形式においても職場・学校が圧倒的に多いが、自宅での仕事中に会話をすることもある。詳しく見てみると、自宅での仕事・学業中の会話の 60% が電話やインターネットなどの遠隔会話であった。全体では遠隔会話は 10% に留まることを考えると、ここでの 60% という値はかなり高いと言える。レジャー活動・付き合いは公共商業施設が多いが、その傾向は用談・相談の場合に特に顕著に見られる。移動は雑談と用談・相談ともに屋外・交通機関（特に後者）が多い。用談・相談の場合、公共商業施設も少なからず見られる。また休息は自宅が圧倒的に多く、職場・学校でも少なからず見られる。図は省略するが、自宅での家事・雑事中の雑談が専業主婦に、職場・学校での仕事・学業中の用談・雑談が会社員等に多いなど、場所・活動と職業との関係もうかがえる。

以上をまとめると、次のようになる。

1. 食事は、自宅では雑談が圧倒的に多いが、公共商業施設では雑談に加えて用談・相談も多く見られる。
2. 家事・雑事は、自宅では家族を相手に雑談や用談をしながら行われることが多いのに対し、店舗などの公共商業施設では、店員などを相手とする用談が多い。
3. 仕事・学業等は、いずれの会話形式においても職場・学校が圧倒的に多い。
4. レジャー活動・付き合いでの会話は公共商業施設に多い。用談・相談で顕著に見られる。
5. 移動は、雑談と用談・相談ともに屋外・交通機関が多い。
6. 休息は、雑談と用談・相談ともに自宅が多く、職場・学校でも少なからず見られる。

² 「社会参加」は頻度が低いため割愛する。

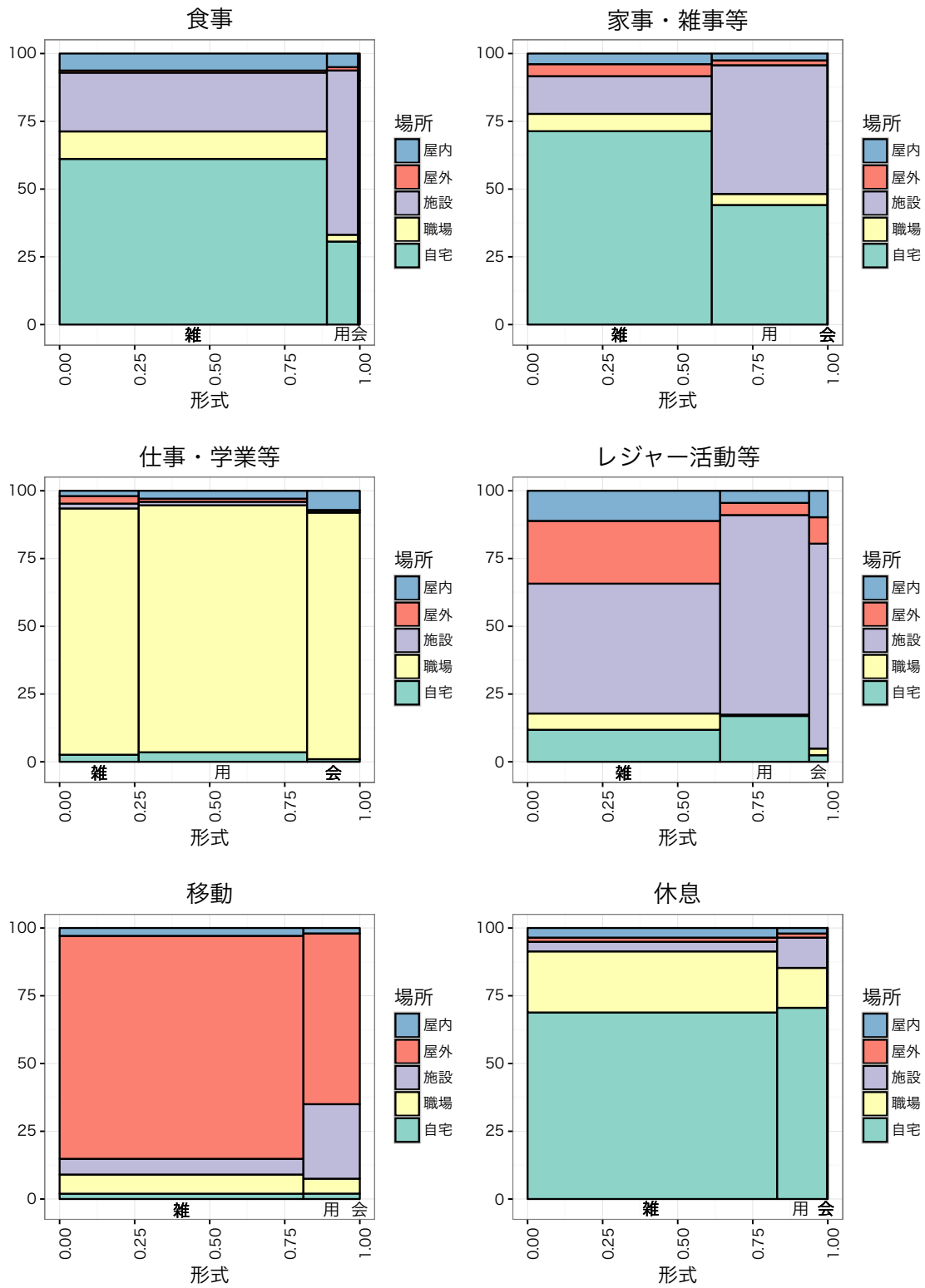


図 3.12: 活動の種類ごとに見る会話形式と場所の出現傾向

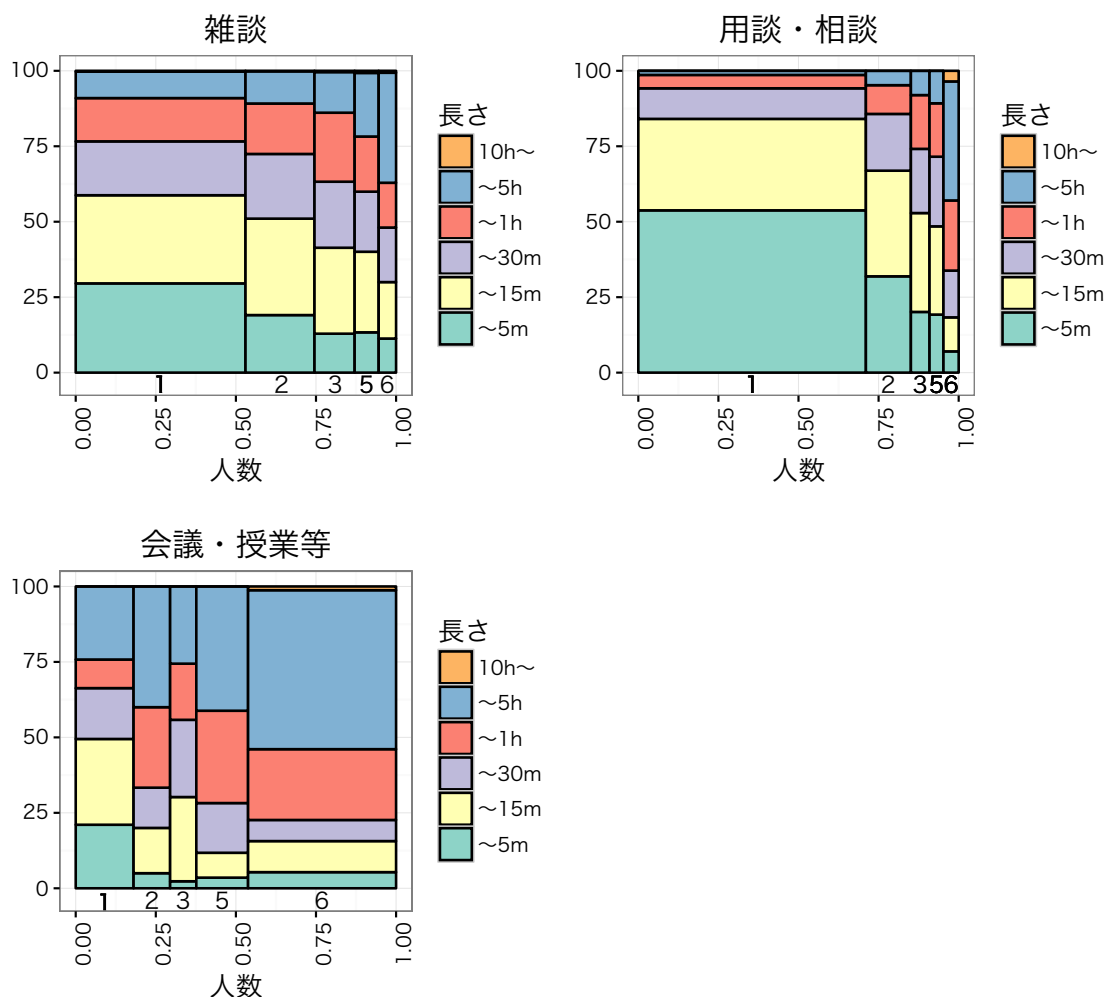


図 3.13: 会話形式ごとに見る会話の長さや人数の関係

3.2.3 会話の長さや人数

本節では、会話の長さや人数の関係について見ていく。

図 3.13 に、会話形式ごとに相手人数と長さの出現傾向を示す。図から、用談・相談では 70% 以上が相手人数 1 人（2 人の会話）であり、その 80% が 15 分未満と、少人数・短時間の会話が頻出しているのに対し、会議・授業等では逆に多人数・長時間の会話が多く見られることが分かる。雑談はその中間の傾向を示している。またいずれの形式においても、相手の人数が増えるほど長い会話が増加する傾向が見られる。

会話の長さや人数との関係を活動ごとに見ると（図 3.14）、形式ごとの分析で観察された、人数が増えるほど長い会話が増加する傾向が、いずれの活動にも見られることが分かる。人数に着目して全体の傾向を概観すると、家事・雑事等や移動、休息中は相手が 1 人であることが多いのに対し、食事や仕事・学業等、レジャー活動・付き合いの際は 2 人あるいは 3 人以上の場合が相対的に多い。長さにも着目すると、家事・雑事等は相手が 1 人の場合、5 分未満のごく短い会話が頻出しているのに対し、同じく相手人数の少ない休息は相対的に長めの会話が長く、1 時間以上の会話も 25% 見られる。移動はその中間の傾向を示す。家事・雑事中は、店員や家

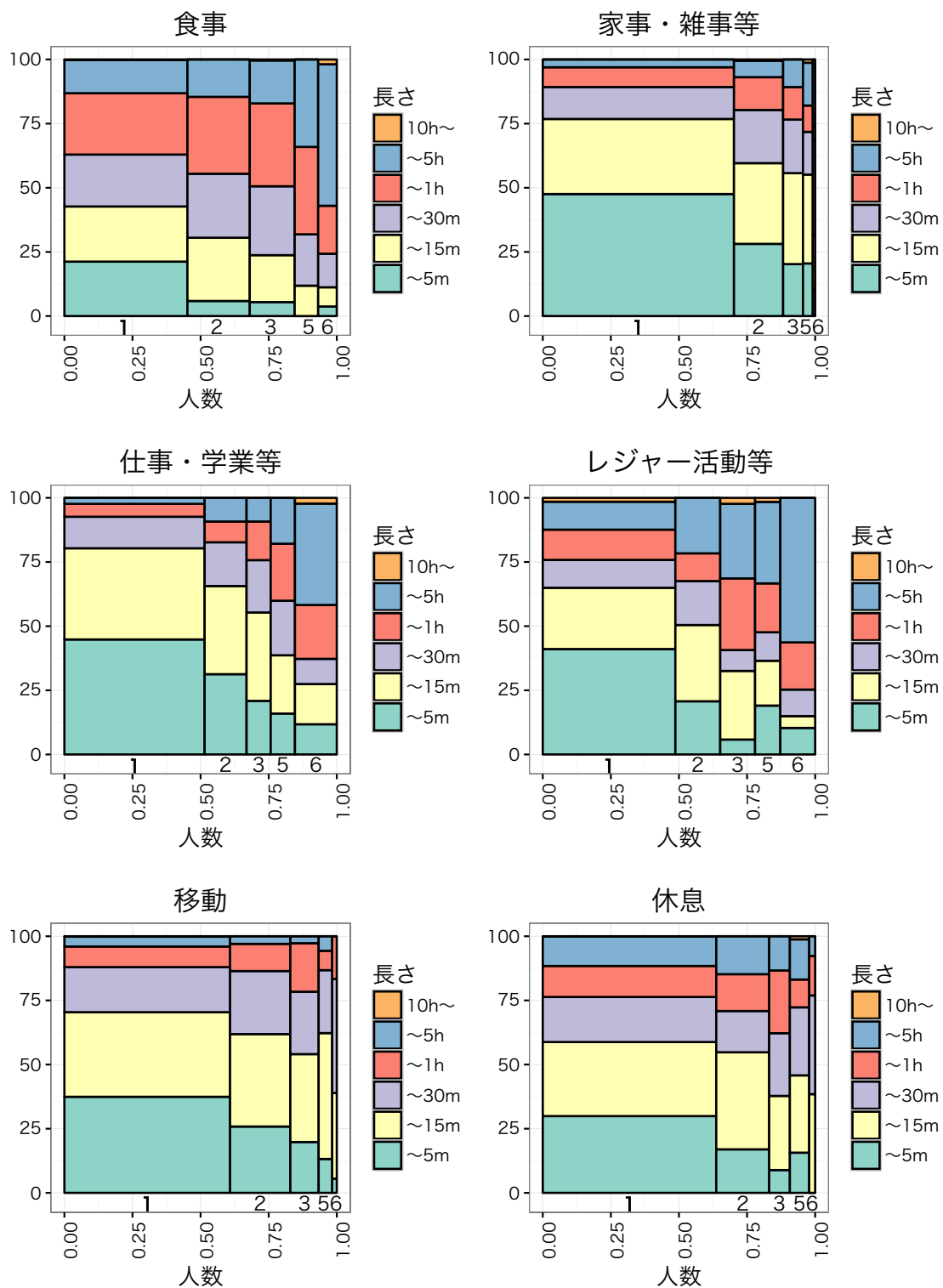


図 3.14: 活動ごとに見る会話の長さと人数の関係

族と用談を中心とする軽い会話を交わすことはあっても、大人数と長時間話し込んで家事・雑事という活動を止めることはないということであろう。

次に、比較的人数の多い食事、仕事・学業等、レジャー活動・付き合いを比べてみると、食事は長めの会話がが多いのに対し、仕事・学業等では短めの会話がが多い。レジャー活動等はその中間の傾向を示す。仕事・学業等に短時間の会話がが多いのは家事・雑事等と同じ理由であると考えられるが、前者は会議などの大人数・長時間の会話も見られる点に違いがある。また、食事とレジャー活動・付き合いは、ある程度まとまった時間の会話をするものの多い活動と言える。特にその傾向は食事に強く見られる。

以上をまとめると、次のようになる。

1. 用談・相談は少人数・短時間の会話が、会議・授業等は大人数・長時間の会話がが多い。雑談はその中間の傾向を示す。
2. 食事中は、ある程度的人数とまとまった時間の会話をするのが多いのに対し、家事・雑事や仕事・学業中の会話は、当該活動に支障をきたさない短時間会話がが多いといったように、会話の人数・長さや活動の種類との対応関係が見られる。
3. 相手の人数が増えるほど長い会話が増加するという一般的な傾向が見られる。

3.2.4 会話相手の属性

これまでは、会話相手の属性に関わらずその合計人数だけに着目してきた。本節では、どのような関係の人と会話をする傾向にあるかを見ていく。全会話の全ての話者数を関係性ごとにまとめ上げ、会話形式あるいは活動の種類ごとにその出現率を求めた。図 3.15 に結果を示す。

会話形式ごとの傾向を見てみると（図 3.15 左）、雑談の場合、家族や友人知人、仕事学業関係といったように、私的あるいは公的に普段からよく接している人が多いのに対し、用談・相談は仕事学業関係者や公共商業関係が、会議・会合や授業・レッスン・講演は先生生徒や仕事学業関係が大半を占めるなど、公的な関係の人や公共商業関係の人が多い。これらの形式では、雑談と比べ、顔見知り・見知らぬ人と会話することも少なからずある。

次に活動ごとの結果を見てみると（図 3.15 右）、家族との会話がが多いのは、食事や家事・雑事等、休息中であり、また移動時も少なからず見られる。友人・知人との会話も家族の場合と類似した傾向を示すが、家事・雑事では少なく、むしろ社会参加（地域活動やボランティアなど）やレジャー活動・付き合いでの会話が多くなる。仕事・学業関係者の場合、仕事・学業中の会話が大半を占めるが、食事や出勤・退勤時などの移動、また休息（休憩時間）中の会話も少なからず見られる。顔見知り・見知らぬ人との会話は、地域活動などの社会参加やレジャー活動中などに見られるようである。

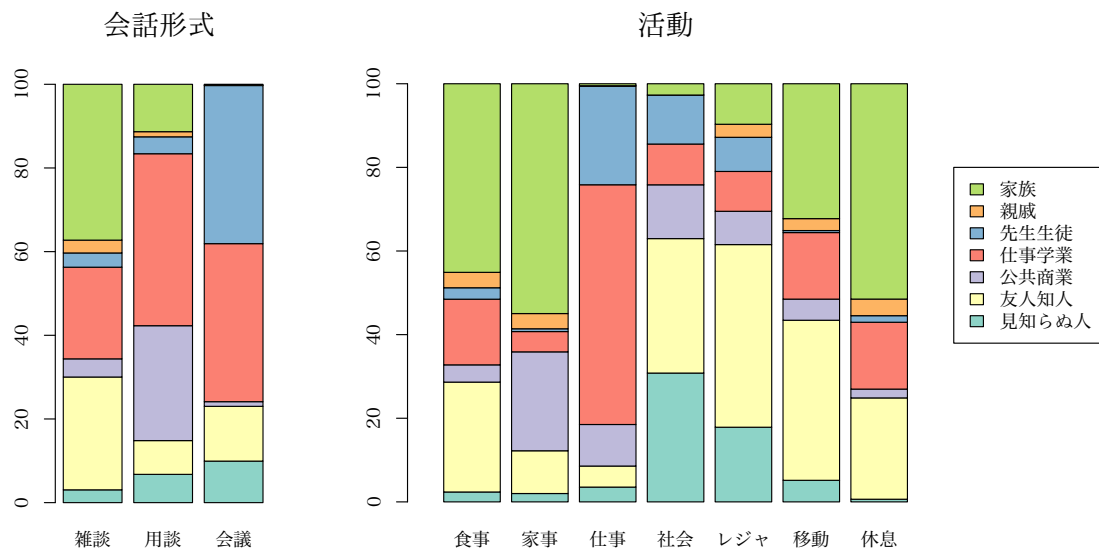


図 3.15: 形式の種類ごとに見る会話の長さや人数の関係

おわりに

本報告書では、国立国語研究所フーズビリティスタディ型共同研究プロジェクト「均衡性を考慮した大規模日本語日常会話コーパス構築に向けた基盤整備」において実施した、一日の会話行動に関する調査について報告した。この調査は、現在構築を進めている『日本語日常会話コーパス』の設計に欠かせない、重要な調査である。

「日常会話コーパス」プロジェクトは、2016年4月に開始し、順調に会話の収録を進めている。2017年1月10日時点で、203時間（240会話、延べ会話者数751人、異なり会話者数301人）の会話が集まっている。この中からコーパスに収める会話を選定するにあたり、会話行動調査で得られた結果を参考に、偏りがいないかを検証した。その結果、職場・学校での仕事・学業中の会話や未成年者を含む会話が少なかったことが分かった（小磯ほか2007）。この結果を踏まえて今後の会話収録の方向性を検討しているところである。2017年度以降もコーパスの構築は続くが、随時、本調査結果を用いて収録データを評価することにより、多様な種類の会話をバランスよく納めたコーパスを構築する。

参 考 文 献

- 小磯花絵・土屋智行・渡部涼子・横森大輔・相澤正夫・伝康晴（2016）「均衡会話コーパス設計のための一日の会話行動に関する基礎調査」『国立国語研究所論集』10, pp.85-106, 東京：国立国語研究所.
- 小磯花絵・居關友里子・白田泰如・柏野和佳子・川端良子・田中弥生・伝康晴・西川賢哉 (2017) 『『日本語日常会話コーパス』の構築』『言語処理学会第 23 回年次大会予稿集』 pp.775-778.
- 国立国語研究所（1955）『談話語の実態』国立国語研究所報告 8, 東京：秀英出版.
- 国立国語研究所（1960）『話しことばの文型 (1) -対話資料による研究-』国立国語研究所報告 18, 東京：秀英出版.
- 国立国語研究所（1963）『話しことばの文型 (2) -独話資料による研究-』国立国語研究所報告 23, 東京：秀英出版.
- 国立国語研究所（1971）『待遇表現の実態—松江 24 時間調査資料から—』国立国語研究所報告 41, 東京：秀英出版.
- 国立国語研究所（1980）『日本人の知識階層における話しことばの実態：「場面について」分析資料』東京：国立国語研究所.
- 国立国語研究所（1987）『談話行動の諸相：座談資料の分析』国立国語研究所報告 92, 東京：三省堂.
- 日本放送協会（2010）『2010 年国民生活時間調査報告書』東京：NHK 放送文化研究所.
- 畠弘巳（1983）「場面とことば」『国語学』133, pp.5568.

■ 付記 本調査は、国立国語研究所フイージビリティスタディ型共同研究プロジェクト「均衡性を考慮した大規模日本語日常会話コーパス構築に向けた基盤整備」（2014 年 7 月～2015 年 8 月）の補助を受けて実施した。また本報告書は、国立国語研究所機関拠点型基幹研究プロジェクト「大規模日常会話コーパスに基づく話し言葉の多角的研究」（2016～2021 年度）でとりまとめた。

付録 1

記 入 票

記入票

月 日

平日 休日

※どちらかに丸をつけてください

I D :

○記入見本○

① どんな会話か			
<自由にメモしてください>			
自宅で夕食を食べながら家族と雑談			
② いつ (1つ選択)			
☐ 午前	☐ 午後	☒ 夜(午後6時頃～)	
③ どのくらい (1つ選択)			
☐ 5分未満	☐ 5～15分	☐ 15～30分	☒ 30分～1時間
☐ 1～2時間	☐ 2～5時間	☐ 5～10時間	☐ 10時間以上
④ どこで (1つ選択)			
☒ 自宅 ☐ 職場・学校 ☐ 公共商業施設 ☐ 交通機関			
☐ それ以外の屋内 ☐ それ以外の屋外			
⑤ だれと (あてはまるものそれぞれに人数を記入)			
家族: 3 人 親戚: _____人 先生・生徒: _____人			
仕事・学業関係: _____人 公共商業関係: _____人			
友人・知人: _____人 顔見知り・見知らぬ人: _____人			
⑥ 何をしながら (1つ選択)			
☒ 食事 ☐ 家事・雑事 ☐ 身周りの用事 ☐ 療養			
☐ 仕事・学業 ☐ 業務外・課外活動 ☐ 社会参加			
☐ レジャー活動 ☐ 付き合い ☐ 移動 ☐ 休息			
⑦ どんな種類 (1つ選択)			
☒ 雑談 ☐ 用談・相談 ☐ 会議・会合 ☐ 授業・レッスン・講演			
⑧ その他 (あてはまるものすべて選択)			
☐ 電話・スカイプなどの遠隔での音声・映像会話			
☐ 外国人を含む会話 ☐ 外国語を含む会話			

① どんな会話か

<自由にメモしてください>

② いつ (1つ選択)

☐ 午前

☐ 午後

☐ 夜(午後6時頃～)

③ どのくらい (1つ選択)

☐ 5分未満

☐ 5～15分

☐ 15～30分

☐ 30分～1時間

☐ 1～2時間

☐ 2～5時間

☐ 5～10時間

☐ 10時間以上

④ どこで (1つ選択)

☐ 自宅

☐ 職場・学校

☐ 公共商業施設

☐ 交通機関

☐ それ以外の屋内

☐ それ以外の屋外

⑤ だれと (あてはまるものそれぞれに人数を記入)

家族: _____人

親戚: _____人

先生・生徒: _____人

仕事・学業関係: _____人

公共商業関係: _____人

友人・知人: _____人

顔見知り・見知らぬ人: _____人

⑥ 何をしながら (1つ選択)

☐ 食事

☐ 家事・雑事

☐ 身周りの用事

☐ 療養

☐ 仕事・学業

☐ 業務外・課外活動

☐ 社会参加

☐ レジャー活動

☐ 付き合い

☐ 移動

☐ 休息

⑦ どんな種類 (1つ選択)

☐ 雑談

☐ 用談・相談

☐ 会議・会合

☐ 授業・レッスン・講演

⑧ その他 (あてはまるものすべて選択)

☐ 電話・スカイプなどの遠隔での音声・映像会話

☐ 外国人を含む会話

☐ 外国語を含む会話

付録 2

基本情報シート

基本情報シート

以下の項目について、あてはまるものに○をつけてください。

性別

●男性

●女性

年代

●20代

●30代

●40代

●50代

●60代以上

職業

●会社員・役員・公務員・専門職

●自営業

●学生

●専業主婦

●パート・アルバイト

●無職・定年退職者

●その他（ ）

世帯員数（自分を含めて、同居している人数）

●_____人

居住地（現在住んでいる場所）

●東京都

●神奈川県

●千葉県

●埼玉県

ID : C0001

付録 3

記 入 の 手 引 き

記入の手引き

実際に調査を始める前に、この手引きをよくお読みください。

何かご不明な点がありましたら、
以下の連絡先までお問い合わせください。

—— お問い合わせ先 ——

- 電話: 042-540-4534 (担当: 小磯・渡部・土屋)
- Eメールアドレス: convsurvey2014@gmail.com

どのような調査？

この調査は、私達が日ごろ、どのような場面で、どのような相手と、どれだけ会話しているかをくわしく調べるものです。

たとえば、あなたは日ごろの生活の中で、家族や、仕事仲間のほかにも、お店の店員や、学校の先生などといろいろな会話をしているでしょう。また、電車の中や、飲み会など、いろいろな場所・場面で会話をしているでしょう。この調査では、あなたが1日の中でしたすべての会話の状況について、できるだけめれなく、いくつかの項目に答えていただきます。

上司との相談



お店でのやりとり



家族の食事



授業・ならいごと

移動中の車内での会話



友人・知人との会話

何を調べるの？

今日から2週間以内の任意の平日2日、休日1日を対象に、その日1日（起きてから寝るまで）の間におこなったすべての会話について、それぞれ以下の8つの項目に回答していただきます。会話が少ない日はなるべく避け、色々な種類の会話をする日を選んでください。お仕事をされている方は、勤務日を「平日」、非勤務日を「休日」としてください。お仕事をされていない方は、暦に従い、土日祝日を「休日」、それ以外を「平日」としてください。

項目	説明	回答方式
① どんな会話か	会話の内容の簡単な説明	自由記述
② いつ	会話がおこなわれた時間帯（午前・午後・夜）	1つ選択
③ どのくらい	会話の長さ	1つ選択
④ どこで	会話をした場所	1つ選択
⑤ だれと	あなたと会話の相手との関係とその人数	複数選択・記入
⑥ 何をしながら	何をしているときに会話をしたか	1つ選択
⑦ どんな種類	雑談や会議・会合などの会話のタイプ	1つ選択
⑧ その他	電話・ネットでの会話、外国語会話、外国人を含む会話	複数選択

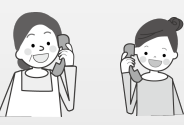
各項目の詳細については、4ページ以降をごらんください。

たとえば、「夫、娘2人と夕食を食べながら、今日1日の出来事などについて雑談をした。」という場合には、記入票に以下のように記入します。

① どんな会話か			
<自由にメモしてください>			
自宅で夕食を食べながら家族と雑談			
② いつ (1つ選択)			
☐ 午前	☐ 午後	☒ 夜(午後6時頃～)	
③ どのくらい (1つ選択)			
☐ 5分未満	☐ 5～15分	☐ 15～30分	☒ 30分～1時間
☐ 1～2時間	☐ 2～5時間	☐ 5～10時間	☐ 10時間以上
④ どこで (1つ選択)			
☒ 自宅	☐ 職場・学校	☐ 公共商業施設	☐ 交通機関
☐ それ以外の屋内		☐ それ以外の屋外	
⑤ だれと (あてはまるものそれぞれに人数を記入)			
家族: 3 人	親戚: _____ 人	先生・生徒: _____ 人	
仕事・学業関係: _____ 人	公共商業関係: _____ 人		
友人・知人: _____ 人	顔見知り・見知らぬ人: _____ 人		
⑥ 何をしながら (1つ選択)			
☒ 食事	☐ 家事・雑事	☐ 身周りの用事	☐ 療養
☐ 仕事・学業	☐ 業務外・課外活動	☐ 社会参加	
☐ レジャー活動	☐ 付き合い	☐ 移動	☐ 休息
⑦ どんな種類 (1つ選択)			
☒ 雑談	☐ 用談・相談	☐ 会議・会合	☐ 授業・レッスン・講演
⑧ その他 (あてはまるものすべて選択)			
☐ 電話・スカイプなどの遠隔での音声・映像会話			
☐ 外国人を含む会話		☐ 外国語を含む会話	

記入のしかた

- 1日につき1冊の記入票を使用します。
- 表紙に【調査をする日にち】【平日／休日の別】を記入してください。
- 1つの会話が終了するごとに、記入票の1ページを使って記入します。
- 会話をした場所や相手、会話のタイプなどが同じ場合に、1つの会話とします。
- なるべく会話が終わるたびに、記入票に記入してください。時間がない場合には、「どんな会話か」の欄だけ簡単に書いておき、時間のあるときに、残りを記入してください。
- 接客業などで個々の会話相手ごとに記入することが難しい場合は、時間帯（午前・午後・夜）ごとにまとめて、1つの会話としてかまいません。
- 後から思い出した会話は、その時点で記入してください。必ずしも記入票が時間順にならんでいる必要はありません。

7:30~  ・自宅リビング ・朝食 ・夫と子ども2人	12:00~  ・飲食店 ・昼食 ・ママ友2人	18:00~  ・子供部屋 ・子どもの勉強 ・子ども1人
8:30~  ・自宅リビング ・電話 ・実家の母	14:00~  ・店舗 ・買い物 ・レジ係の店員	19:00~  ・自宅リビング ・夕食 ・夫と子ども2人
10:40~  ・屋外 ・子どもの送り迎え ・子どもとバス運転手	15:30~  ・英会話スクール ・英会話レッスン ・講師	20:00~  ・自宅リビング ・家族団らん ・夫と子ども2人
午前	午後	夜



各項目の説明

① どんな会話か

どこで、だれと、どのような会話をしたかを簡単にメモしてください。

メモの例

- 家族4人で夕食を食べながら雑談
- 夫婦で子育てについて話し合い
- 勤務先の会社にて定例会議
- アルバイト先のレストランでの接客
- 大学の授業・ゼミ
- 役所の窓口で書類の申請
- 子どもの通う中学校での保護者会
- 交際相手とドライブしながら雑談

② いつ

会話をした時間帯を以下の3つの選択肢から1つ選んでください。

選択肢		
【午前】	【午後】	【夜（午後6時頃～）】

Q 正午（12時）をまたいで会話をした場合は？

→**A** より多くの時間を費やした時間帯を選んでください。たとえば、11時30分から2時30分まで会話した場合は【午後】を選んでください。

Q 接客業で1日じゅう、途切れなく会話をした場合は？

→**A** 時間帯（午前・午後・夜）ごとにまとめて、1つの会話として記入してください。

③ どのくらい

会話のおおよその長さを以下の8つの選択肢から1つ選んでください。

選択肢			
【5分未満】	【5～15分】	【15～30分】	【30分～1時間】
【1～2時間】	【5～10時間】	【2～5時間】	【10時間以上】

Q 30分の食事の中で、5分に満たない短い会話しかしなかった場合は？

→**A** 【5分未満】を選んでください。

Q 職場の休憩室で、1時間の休憩中、同僚と5分程度の雑談を4回おこなった場合は？

→**A** 全体をまとめて1つの会話とし【15分～30分】としてかまいません。

Q 友達とお茶をしていましたが、私は相づちくらいしかしませんでした。その場合は？

→**A** 自分が会話に参加していると思ったら、ほとんど発言していなくても、その会話全体の時間を記入してください。

Q 正確な会話の時間がわからない！

→**A** おおよその時間でかまいません。

④ どこで

会話がおこなわれた場所について、下の説明と例を参考に、6つの選択肢から1つ選んでください。

選択肢	説明と例 (○:あてはまる例 ×:あてはまらない例)
【自宅】	普段の生活の場 ○ 自宅、単身赴任先の部屋 × 出張先のホテル (→【それ以外の屋内】) × 親戚の家 (→【それ以外の屋内】)
【職場・学校】	あなたが所属している会社や学校など ○ 大学・専門学校のキャンパス、勤務先やアルバイト先の職場 × 職場・大学の保養所・レジャー施設 (→【公共商業施設】) × 営業先・出張先の屋内／屋外 (→【それ以外の屋内／屋外】)
【公共商業施設】	(客として利用する場合の) 公共施設および商業施設 ○ 図書館、市役所、郵便局、銀行、駅や空港の構内、病院 ○ 遊園地、店舗 (飲食店・コンビニ・ブティックなど) ○ 百貨店・ショッピングモール ○ スポーツジム、学習塾・ピアノ教室・道場 (個人経営も含む) × 上記施設が職場の場合 (→【職場・学校】) × 上記施設が営業先・出張先の場合 (→【それ以外の屋内／屋外】) × 公園 (→【それ以外の屋外】)
【電車・車などの交通機関】	車・電車・バス等の車内 ○ 電車、バス、タクシー、乗用車、飛行機 × 自転車 (→【それ以外の屋外】) × 駅や空港の構内 (→【公共商業施設】)
【それ以外の屋内】	上記以外の建物の中 ○ 取引先の会社、知人や親戚の家 × キャンパス付属の体育館 (→【職場・学校】)
【それ以外の屋外】	広場や道路などの屋外 ○ 公園、寺社の境内、道路、遊歩道、コインパーキング × 飲食店のテラス席 (→【公共商業施設】) × ショッピングモールの駐車場・広場・道 (→【公共商業施設】)

Q 勤務先が市役所なのですが・・・

→A 勤務先として市役所にいる場合は、【公共商業関係】ではなく【職場・学校】を選んでください。

Q 自宅でピアノ教室を開いています。【職場・学校】と【自宅】どちらを選んだらいいの？

→A 仕事 (レッスン) 中の会話は【職場・学校】、それ以外の会話は【自宅】を選んでください。

⑤ だれと

会話相手との関係とその人数を分かる範囲で全て記入してください。

選択肢	説明と例 (○:あてはまる例 ×:あてはまらない例)
【家族】	親子・夫婦・兄弟姉妹にあたる人 または同じ世帯として一緒に生活している人 ○ 両親、夫・妻、兄弟姉妹、子ども ○ 同居している 祖父母・義父母などの親族 × ルームシェアの相手 (→ 【友人・知人】)
【親戚】	血縁関係はあるが、普段の生活を一緒にしていない人 ○ 同居していない 祖父母・義父母・おじ・おば・いとこなどの親族 × 単身赴任をしている父・下宿をしている子ども (→ 【家族】)
【先生・生徒】	自分にとって「教える・教わる」関係にある人 ○ 大学の先生・学生の間柄、英会話の講師・生徒の間柄 ○ ジムのインストラクター・生徒の間柄 × 医師、弁護士 (→ 【公共商業関係】) × 同じ授業を受けているクラスメイト (→ 【友人・知人】) × 職員として勤務している大学の先生・学生 (→ 【仕事・学業関係】)
【仕事・学業関係】	いま所属している会社や学校の人 または、業務・学業上必要なやりとりをする人 ○ 職場の同僚・上司・部下、取引先・営業先の会社の社員 ○ (学生にとっての) 大学の事務職員 × 職場や大学にある売店・食堂などの店員 (→ 【公共商業関係】) × 店舗や窓口での接客相手 (→ 【公共商業関係】)
【公共商業関係】	物の売り買いやサービスなどの取り引きをする接客の間柄 (サービスをする側・される側の両方を含む) ○ 店舗・飲食店の店員・客の間柄、医師・患者の間柄 ○ 銀行・役所の窓口での接客の間柄、弁護士・相談者の間柄 ○ タクシーの運転手・乗客の間柄
【友人・知人】	互いをよく知っている間柄、または互いに名前と顔が一致する間柄 ○ 交際相手、クラスメイト
【顔見知り・見知らぬ人】	お互い素性をよく知らない人 ○ 病院の待合室でよく隣になる人、近所でよく見かける人 ○ 町で道を聞かれた人

Q 大人数で会議をしました。人数がとても多くて、数えることができない場合は？

→**A** 人数がとても多い場合は、おおまかな数を記入してください。

Q レストランで接客をしています。お客さまとの会話はどのように記録したらいいですか？

→**A** 接客業などで個々の会話相手とその人数を数えることが難しい場合は、時間帯ごと（午前・午後・夜）に1つの会話としてまとめ、それぞれ接客した相手の（おおまかな）合計人数を記入してください。

Q 職場に公私ともに仲の良い人がいます。その人は【仕事・学業関係】？【友人・知人】？

→**A** あなたにとっての主な間柄を1つ選んでください。その人と会話したら、どの場合でも同じ間柄にしてください。あなたが仲の良い友人だと思っている場合は、職場での会話であっても【友人・知人】と回答してください。

Q 友達に紹介されて、はじめて会った人ですが、話をしているうちに仲良くなりました。その場合【友人・知人】？【顔見知り・見知らぬ人】？

→**A** その場で仲良くなって、お互いに名前と顔が一致する間柄になった場合【友人・知人】としてください。

Q クラスメイトと学食で雑談していたのですが、その間、友達何人か出たり入ったり……。その場合、人数が変わるたびに新しいページに書かなければいけませんか？

→**A** 他の項目（いつ、どこで、何をしながら、など）が同じであれば、1つの会話としてかまいません。会話に参加した人数を合計して、1つのページに記入してください。

⑥ 何をしながら

会話をしていたときに何をしていたかについて、以下の 11 個の選択肢から 1 つ選んでください。

選択肢	説明と例（○：あてはまる例 ×：あてはまらない例）
【食事】	普段の習慣的な食事 ○ 自宅での食事、学校・職場での昼食、飲食店での食事 × ホームパーティ（→【付き合い】）
【家事・雑事】	生活の維持に必要な活動 ○ 料理・掃除・洗濯、育児、介護、家族との話し合い ○ 子どもの送り迎え、子どもの相手（家や近所の公園など） ○ 食料品・必需品の買い出し、銀行・役所の用事、ペットの散歩 × ショッピング（→【レジャー活動】） × 料理教室（→【レジャー活動】）
【身周りの用事】	身体健康や清潔をたもつ活動、身支度 ○ 散髪（美容院・床屋含む）、入浴、化粧 × 乳児の入浴や着替えの世話（→【家事・雑事】） × 温泉（→【レジャー活動】）
【療養】	医療・診察、マッサージ師や整骨師などによる施術 ○ 医師による診察、整体、マッサージ × エステやネイルサロン（→【身周りの用事】） × 家族の介護（→【家事・雑事】）
【仕事・学業】	職場や学校に属する 1 人としての仕事や学業 ○ 授業、塾・自宅での学習、学校行事、仕事・営業活動、接待 × 通勤・通学（→【移動】） × 社会人の習いごと（→【レジャー活動】）
【業務外・課外活動】	仕事や学業に関連する副次的な活動 ○ クラブ・サークル活動、歓送迎会、学園祭 × 入社式（→【仕事・学業】） × 同僚との親睦を目的とした非公式の集まり（→【付き合い】）
【社会参加】	仕事や学業以外でおこなっている地域活動や社会活動 ○ PTA、町内会の行事、ボランティア活動 ○ 競技会への参加、冠婚葬祭
【レジャー活動】	趣味・娯楽・行楽・スポーツ・習いごとなどの活動 ○ 映画鑑賞、遊園地、散歩、山登り、ハイキング ○ テニス、ジム、スポーツ観戦、英会話教室、茶道教室

選択肢	説明と例（○：あてはまる例 ×：あてはまらない例）
【付き合い】	人と会うこと・話すことを主な目的とした活動
	○ 同窓会、友達との電話でのおしゃべり ○ 年末年始の親戚の集まり × デートで映画鑑賞、家族で遊園地（→【レジャー活動】）
【移動】	目的地までの徒歩・交通機関を使った移動
	○ 通勤・通学、病院への移動 ○ レジャー施設への移動 × 趣味としてのドライブ（→【レジャー活動】） × 遠足・散歩（→【レジャー活動】） × キャンパス内の移動（→【仕事・学業】）
【休息】	自宅や休憩所などでの休息
	○ リビングでの一家団らん、職場での休憩 × 入浴（→【身周りの用事】）、友人とのティータイム（→【付き合い】）

Q 会話の間、食事をしたり、家事をしたり……。その場合【食事】と【家事・雑事】どちらを選んだらいいの？

→**A** 会話中、主にしていた活動を選んでください。たとえば、家事をしている時間が一番長かった場合は【家事・雑事】を選んでください。

Q 私は【家事・雑事】、家族は【食事】。その場合【家事・雑事】と【食事】どちらを選んだらいいの？

→**A** 自分がしていた活動を記入します。【家事・雑事】を選んでください。

Q 仕事の後、同僚と夕飯を食べに行きました。これは【食事】？【付き合い】？

→**A** その人との交流を主な目的とする場合は【付き合い】、食事が主な目的の場合は【食事】を選んでください。

Q 園芸用品を買いに、車でホームセンターに行きました。家を出てから帰るまでを【家事・雑事】とするんですか？

→**A** 車での移動中の会話を【移動】、ホームセンターでの会話を【家事・雑事】として別々に記入してください。

⑦ どんな種類

会話のタイプについて、以下の4つの選択肢から1つ選んでください。いくつかのタイプの会話が混ざる場合は、主にどのようなタイプの会話をおこなったかを選んでください。

選択肢	説明と例（○：あてはまる例 ×：あてはまらない例）
【雑談】	身近な出来事についての話など、特に話題や目的が決められないまま進む会話 ○ 私生活の近況報告 ○ 見ているテレビ番組についての話
【用談・相談】	相談や決めごとについての会話など、話題や目的がある程度決まっている会話 ○ 店舗・役所でのやりとり ○ 仕事上の相談（日時や場所などが事前に決まっていなかった場合） ○ 医師の診察（予約して診察を受けた場合も含む） ○ 旅行計画の話し合い ○ 待ち合わせの約束の電話
【会議・会合】	会話の予定（時間、場所、話題など）が事前に決まっている会話 ○ 会社の会議、部活の定例ミーティング ○ 町内会の会合、保護者会
【授業・レッスン・講演】	先生や講演者など、会話の流れを導く人物がいる会話 ○ 英会話スクールでのやりとりのあるレッスン、大学のゼミ ○ 新人研修、授業・講演の質疑応答（自分が参加している場合） × 会話のやりとりのない、1人が話しているだけの授業・講演（今回の調査対象ではありません）

Q レストランで家族と食事しながら雑談中、店員さんに注文をしました。その記入方法は？

→**A** それぞれ違う会話として、記入票の別々のページに記入してください。家族との雑談は【雑談】、店員さんへの注文は【用談・相談】を選んでください。

Q 用談をする前の軽い雑談は、別々にするべき？

→**A** 会話の相手や場所などに変更がなければ、同じ会話とし、主な会話のタイプである【用談・相談】を選んでください。

Q 朝食時、雑談と一緒に、今日の予定の確認などもします。その場合は【雑談】？【用談・相談】？

→**A** 主にどのようなタイプの会話をおこなったかで判断してください。予定を確認している最中に雑談が混じる場合は【用談・相談】、雑談している最中に予定の確認が混じる場合は【雑談】を選んでください。

Q 2時間の会議に参加しましたが、発言しませんでした。それは記入対象ですか？

→**A** 会話のやりとりがおこなわれる会議に参加していたということで、発言していなくても記入の対象となります。

⑧ その他

あてはまるものにすべてチェックしてください（複数選択可）。あてはまるものがない場合は、チェックは不要です。

選択肢（複数選択可）

電話・スカイプなど遠隔での音声・映像会話

外国人を含む会話

外国語を含む会話（単語だけ、1文だけなど、部分的に外国語で話したものは含まない）

記入例

■ 会話の状況（その1）

- 午後、行きつけの飲食店に1人で入った。
- そのお店でお昼ごはんを食べている途中、友人から電話があった。
- 友人とは、事前に旅行に行く約束をしていた。
- そのまま食事を続けながら、今度行く旅行のスケジュールを20分ほど相談した。

① どんな会話か			
<自由にメモしてください> レストランで1人でランチ中、旅行について友人と電話で相談			
② いつ（1つ選択）			
☐ 午前	☒ 午後	☐ 夜（午後6時頃～）	
③ どのくらい（1つ選択）			
☐ 5分未満	☐ 5～15分	☒ 15～30分	☐ 30分～1時間
☐ 1～2時間	☐ 2～5時間	☐ 5～10時間	☐ 10時間以上
④ どこで（1つ選択）			
☐ 自宅	☐ 職場・学校	☒ 公共商業施設	☐ 交通機関
☐ それ以外の屋内		☐ それ以外の屋外	
⑤ だれと（あてはまるものそれぞれに人数を記入）			
家族：_____人		親戚：_____人	
先生・生徒：_____人		仕事・学業関係：_____人	
友人・知人： 1 人		顔見知り・見知らぬ人：_____人	
⑥ 何をしながら（1つ選択）			
☒ 食事	☐ 家事・雑事	☐ 身周りの用事	☐ 療養
☐ 仕事・学業	☐ 業務外・課外活動	☐ 社会参加	
☐ レジャー活動	☐ 付き合い	☐ 移動	☐ 休息
⑦ どんな種類（1つ選択）			
☐ 雑談	☒ 用談・相談	☐ 会議・会合	☐ 授業・レッスン・講演
⑧ その他（あてはまるものすべて選択）			
☒ 電話・スカイプなどの遠隔での音声・映像会話			
☐ 外国人を含む会話		☐ 外国語を含む会話	

■ 会話の状況（その2）

- 夕方に、職場で定例的な会議があった。
- 会議はおよそ1時間半程度だった。
- 自分が話したのは、合計で5分程度だった。
- 人数は数えていないが、だいたい20人程度だったと思われる。
- ほとんど話したことのない人も何人かいるが、全員同じ会社の人である。
- ただし、会社の同僚に大学時代からの友人が1人いて、彼も会議に参加していた。

① どんな会話が			
<自由にメモしてください>			
職場での定例会議			
② いつ（1つ選択）			
☐ 午前	☒ 午後	☐ 夜（午後6時頃～）	
③ どのくらい（1つ選択）			
☐ 5分未満	☐ 5～15分	☐ 15～30分	☐ 30分～1時間
☒ 1～2時間	☐ 2～5時間	☐ 5～10時間	☐ 10時間以上
④ どこで（1つ選択）			
☐ 自宅	☒ 職場・学校	☐ 公共商業施設	☐ 交通機関
☐ それ以外の屋内		☐ それ以外の屋外	
⑤ だれと（あてはまるものそれぞれに人数を記入）			
家族：_____人		親戚：_____人	
先生・生徒：_____人			
仕事・学業関係： 20 人		公共商業関係：_____人	
友人・知人： 1 人		顔見知り・見知らぬ人：_____人	
⑥ 何をしながら（1つ選択）			
☐ 食事	☐ 家事・雑事	☐ 身周りの用事	☐ 療養
☒ 仕事・学業	☐ 業務外・課外活動	☐ 社会参加	
☐ レジャー活動	☐ 付き合い	☐ 移動	☐ 休息
⑦ どんな種類（1つ選択）			
☐ 雑談	☐ 用談・相談	☒ 会議・会合	☐ 授業・レッスン・講演
⑧ その他（あてはまるものすべて選択）			
☐ 電話・スカイプなどの遠隔での音声・映像会話			
☐ 外国人を含む会話		☐ 外国語を含む会話	

